平成２９年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【長崎県】

１実践テーマ	【　Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ　】
２実施対象者	小長井中学校全学年全生徒　１２３名 小長井中学校全職員　１８名 保護者　１１５名 学校支援会議　13名 マスコミ関係　9名
３展開の形式	（1）学校における活動 ①　教科名（　保健体育・道徳　） ②　行事名（　　） ③　その他（　給食活動　　） （2）地域における活動 ①　イベント名（　親子ふれあい講演会　） ②　その他　（　学校公開日・学校支援会議　）
４　目　標 （ねらい）	・本物に触れることで、オリンピック・パラリンピックに対しての興味関心を高める。 ・周囲に支えられて今の自分があることに気づき、お互いが認め合い支え合う共生社会の構築。 ・日常の生活の中に運動を取り入れ、スポーツに親しむ習慣を身につける。

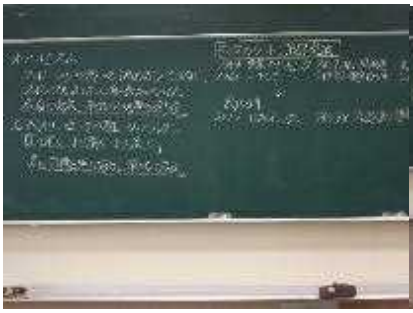
５　取組内容	○道徳〔共生〕（全学年〕 オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料を使って ○保健体育〔体育理論〕（１年）１０／１２ オリンピック・パラリンピック教育 I’mPOSSIBLE を使って、パラリンピックの価値・意義について ○保健体育〔からだつくり運動〕〔全学年〕 ・実技ふれあいタイム ボールを使ったウォームアップ 大縄跳び 集合写真 ○ふれあい給食 ３年１組の教室へ伊藤さん・小林部長が来室し、生徒とともに給食を食べ交流を図る。 ○PTA 行事〔親子ふれあい講演会〕

・フラッグセレモニー
伊藤華英さん、小林部長がフラッグを持って入場
伊藤さんから生徒代表へオリンピックフラッグ
小林部長から生徒代表へパラリンピックフラッグ受け渡し

・アスリートトークセッション
伊藤華英・小林部長によるトークセッション
生徒からの質疑応答

〇長崎県歴代オリンピック・パラリンピック選手紹介パネル巡回展示
１２／１２～１２／２１
生徒玄関前廊下に展示。１２／１５は、学校公開日、学校支援会議も実施。

〇保健体育〔体育理論〕（全学年）１年 12/15，２・３年 12/19
オリンピック・パラリンピック教育
限界突破（ディスカウント）、失った物を数えるな、残された物を最大限に生かせ



〇オリンピック・パラリンピック教育推進協力員派遣事業
・全生徒対象　１１／２
オリンピック・パラリンピック教育充実・啓発プレゼン、成長期の体の特徴、食事の基本的な考え方、休養の必要性についての講義、

その後、イスを使ってストレッチ＆トレーニングの実習。

・陸上部　　１２／２

体幹トレーニング、自体重を使ったスクワット、ランジトレーニング等のポイントを押さえての実習。

・剣道部　　１２／２

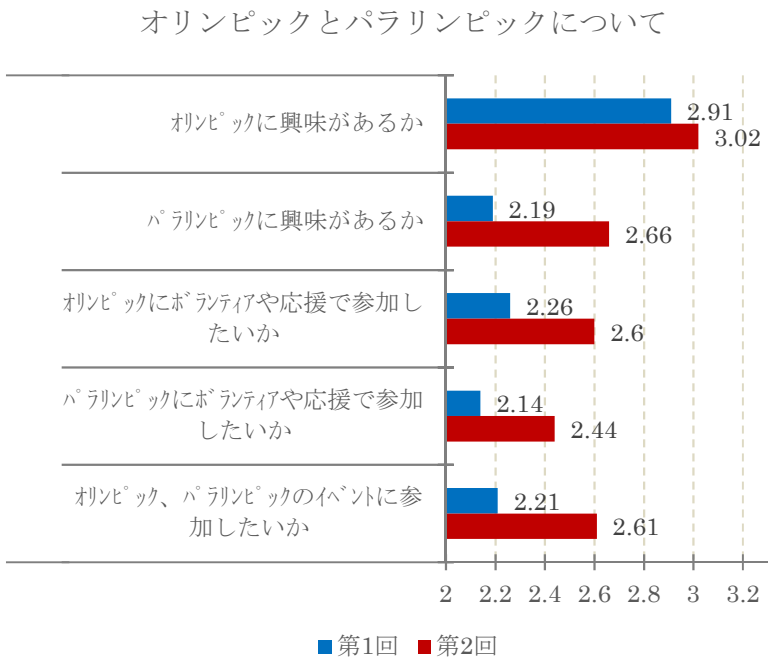
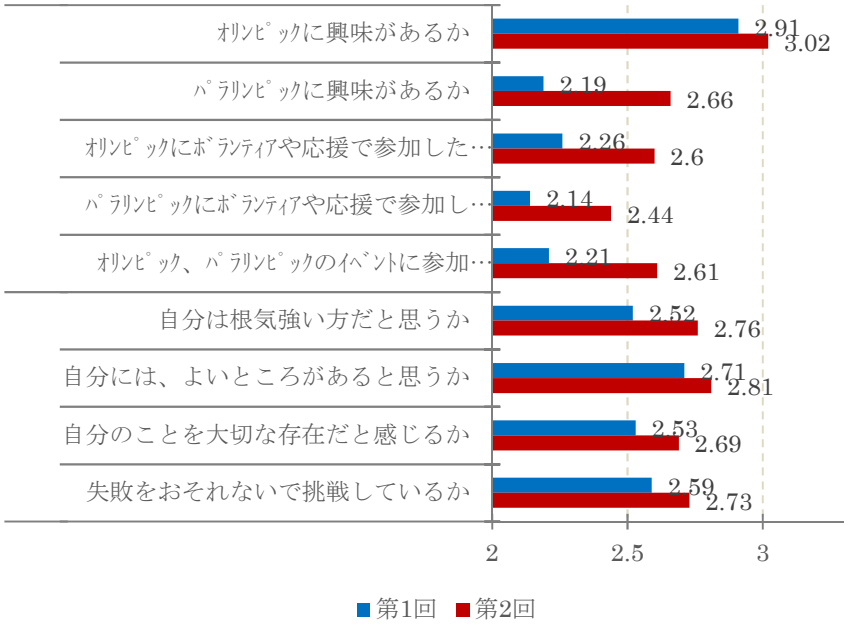
前回のストレッチの復習、肩・股関節の可動域を広げるトレーニングを中心に実習

・バレー部　　１２／９

食事指導（偏食、食事のバランス、成長期の食生活等）、動的ストレッチ運動と体幹トレーニング、動き作りのモデル内容等。

・全部活動　　１／１５

運動、栄養、休養の復習と実技の復習を含めて実施、その後箱根駅伝の青学トレーニング等、実際に日本トップの選手達もブレない体を作るためには地味なトレーニングを確実に実施していることの重要性を講義

６　主な成果	この推進事業を受けるまでは、小長井中学校の生徒・職員にとってオリンピック・パラリンピックとは、全く別世界のことであり、とうてい身近な話題ではなかった。 それが、オリンピアンの伊藤華英さんとのふれあいタイム、フラッグツアー、トークセッションと身近に触れる機会があり、かなり大きな刺激を受けた。それを前後してのパネル巡回展示やポスター掲示等も興味関心を高めることに効果があった。 推進協力員派遣事業で、能トレーナーからオリンピック・パラリンピック啓発プレゼンをしていただき、その後道徳・保健体育でオリンピック・パラリンピックを題材で授業をすることで、ずいぶんと興味関心が高まった。特にパラリンピックへの興味はずいぶんと高まった。これは、オリンピック・パラリンピックについてのアンケート結果にも顕著にあらわれている。   また、能トレーナーからの全校、また各部活動からの要望による実

	技・研修で、柔軟性を高めるストレッチ、体幹トレーニングや動き作りなど、具体的に指導をしていただき、教職員を含めかなり意識向上につながった。
７実践において工夫した点（事業の特色）	校長自らオリンピック・パラリンピック教育啓発事業の横断幕を作成して事業ごとに掲揚し、長崎出身のオリンピアン・パラリンピアンのポスターを、各学年の階の廊下、階段の踊り場、体育館入り口、武道場入り口に飾る等、掲示教育に努めた。 推進協力員派遣事業では、全校対象・部活動対象と対象を変えながら、全校ではスポーツテストの結果で劣っている柔軟性、部活動ではそれぞれの部活動の顧問が要望する内容でと、実態に即した指導の場面を設定した。さらに指導していただいたストレッチ各種を、写真入り解説を全学級に掲示し、日頃から意識するように働きかけた。
８主な課題等	来校していただく、オリンピアン・パラリンピアンに対して、事前に子供たちへの周知がどれほどあるかで、ずいぶんと効果が変わる。特にその校の部活動に対象スポーツがない場合、大切である。 行政側も学校側も窓口を一本化、もしくは連絡調整の共有化がかなり難しい。今回は、全国フラッグツアーと兼ねたため、特に痛感した。飛び込みでの秒単位での要望もあり、対応に追われた。実施してしまえば、効果が大きいのでやりがいはあったが、事前の覚悟は必要である。
９来年度以降の実施予定	平昌オリンピックが終わったすぐでもあり、また東京オリンピックまでわずかと迫るため、スポーツ情報は今まで以上に得やすくなると予想される。その情報を上手く利用し、体育大会や中総体等の体育的行事へのモチベーションを高めていきたい。そのためには、今年に引き続き、掲示教育を継続していく必要がある。 また今年度のオリンピック・パラリンピック教育推進協力員派遣事業もしくは、体育的サポーター派遣事業を申請し、トレーナー派遣をぜひ継続していきたい。